

あなたの推しはどれ？ イチ推しラブレター

ラブレター、それは声を持たない告白の形。空気を揺らしてはやがて消えてしまうはずの声は、文字に託されることでその形を残し続ける。

このページでは現代に残る、そして未来にも残っていくこと間違いなしの傑作ラブレターたちを企画員の独断と偏見でピックアップ！
一つずつ紹介していこう。

「僕のやってる商売は、今の日本で一番金にならない商売です。その上、僕自身もろくに金はありません。ですから、生活の程度からいえば、何時までたっても知れたものです。それから僕は、からだもあたまも、あまり上等にはでき上がっていません。(中略)それでよければ来て下さい。理由は一つしかありません。僕は文ちゃんが好きです。それだけでよければ来て下さい。」

——芥川龍之介

『羅生門』や『鼻』などで知られる大正の文豪、芥川龍之介がプロポーズのためにしたためた手紙の一節。見合い結婚が主流であった当時、損得ではなくただ好きだから結婚したいという芥川の情熱的で一途な気持ちが文面から伝わってくる。

フランスの誇る英雄ナポレオン。彼が妻であるジョセフィーヌに宛てたとされる数万通にわたるラブレターのうちの一つ。ジョセフィーヌは大変奔放で浮気癖のひどい女性であったようで、ナポレオンは生涯振り回されていたそう。厳しい軍人として、また威厳ある皇帝として知られる彼の嫉妬に悶える意外な一面が見える。

「お前のことなど全く愛していない。それどころか憎んでさえいる。私を愛していないからだ。お前の手紙がどれほど私を喜ばせるかわかっていながらたった5、6行の手紙さえ書こうとしないじゃないか！」

——ナポレオン・ポナパルト

「コートニーへ
ヤツらは俺を探してる 今なら君だけでも逃げ出せるだらう (中略) このまま死ぬくらいなら せめて奴らに矢報いてやりたい 娯楽室の隣部屋にあった ショットガン あいつで連中に思い知らせてやる 君は逃げろ 愛してるよ トラヴィスより」
——『バイオハザード7 レジデント イービル』

「ヤツら」に追われ死の淵まで追いこまれたトラヴィス。彼が妻のコートニーに宛てた、おそらく人生で最後の手紙だ。緊迫した状況に置かれながらも妻の無事を想う様子から、最期まで彼女を愛していたことが窺える。最期に残した彼の愛は無事に届いたのだろうか……。

拝啓

大切なあなたへ

下駄箱、体育館の裏、机の中。連想するのはラブレターだ。しかし、実際に送った、受け取った経験がある人は僅かだろう。年々手紙は遠い存在になっている。

ポストに届くのはチラシばかり、あの人が書く字を思い出せないなんてことも珍しくない。

確かに、指先一つでメッセージが送れる時代に改まって形にするのは手間がかかるし、気恥ずかしい。

それでも、手紙には電話にもメールにも代えがたい魅力がある。言葉と同じか、それ以上の気持ち、背景に感じられるのだ。

密になれない今だからこそ、蜜な手紙に想いを馳せたい。

ラブレター思い出コラム

小学生の頃、好きな女の子にラブレターを書きました。その返事にはなんと「僕も好きでした」の文字が。今でも大事にしまっています (どこにしまったか怪しい)。

14日ごとに記念の手紙を送ってくる恋人がいて毎々しすぎて嫌だった。

恋人に手紙をもらったけれど、面倒だったので返事をWordで書いてPDFにしてメールで返したことがあります。

中学生の時、上履袋にラブレターが入っていたのに気付かず履いていて、見つけた時には文字が汗でとけて読めなくなっていた。誰か書いたがわからなくて残念だった！ 実に惜しい。

Step.3 ラブレター文面を受け取る

Mくん、突然お手紙など渡したから驚いたかな？ 驚いたよね。

つき合い始めてちょうど2年が経つから、今のわたしの気持ちをMくんに伝えておこうと思ったんだ。

唇から出た言葉は消えてっちゃうから、それは少しさびしくて、こうしてお手紙に書いてみることにしました。

Mくん、いつもありがとう。

2年間わたしのそばにいてくれたことも、今も変わらずに好きでいてくれることも、「サウダージ」を全力で歌ってくれることも、気持ちを素直に伝えてくれることも、ケンカでいつも先に謝ってくれることも、全部、ありがとう。

ケンカについては、ごめんなさい、かな。

わたしはまだ20年くらいしか生きてないから、愛とか優しさとかはよくわからないけど、それでも、家族について話すMくんの穏やかな表情や、わたしに気持ちを伝えてくれるときのMくんの眼差しを前にすると、わたしはMくんを愛しく思うし、優しい気持ちになります。

素直に自分の気持ちを伝えるのは苦手なはずなのに、Mくんに対しては、好きも、ありがとうも、たのしいも、さびしいも、全部言えるから不思議です。

2年という時間、Mくんと一緒にいられたことはすごく嬉しいけど、全然足りないかな。

まだまだ一緒にいたいです。だから、これからもずっとわたしの横にいてね。わたしの横にいるMくんが好きだし、Mくんの横にいるわたしが、わたしは一番好き。

Mくん、いつもありがとう。

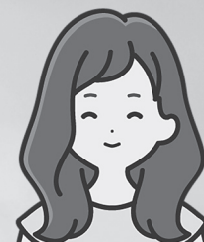
これからもよろしくお願いします。

ラブレター、
渡してみた。

あの人に想いを伝えたい、でもどう言葉にしたらいいかわからない。そんな人の背中を押してくれるサービスがある。その名も「ラブレター代筆屋」。依頼者になり代わってラブレターの文面を作成してくれるのだ。今回は、付き合って2年、まだ恋人に手紙を渡したことがない企画員が、実際に代筆を依頼してラブレターを渡してみた。手紙を通した気持ちのやりとり、少し覗いてみよう。

Step.1 ラブレター代筆を依頼する

「ラブレターなんて渡したことねえ！ 上手く書ける自信もねえ！」と思っていたところ、この代筆サービスを知りました。これは日頃の感謝を恋人に伝えるチャンス。今まで伝えられなかった思いはたくさんあります。カウンセリングで自分の想いをしっかり説明して、小林さんに作成していただいたラブレターで惚れ直してもらおうと思います。



ラブレター代筆屋 小林慎太郎

1979年東京都出身。立教大学卒。都内IT企業に会社員として勤めるかわら、「想いを伝える」をコンセプトに他者のラブレターを代筆するラブレター代筆屋として2014年より活動。現在までに100通以上のラブレターを代筆、多数メディア出演。著書に『ラブレターを代筆する日々を過ごす「僕」と、依頼をするどこかの「誰か」の話。』（インプレス社）がある。

今回お世話になったのは
こちら！

Step.4 便箋に書き起こして渡す



驚いたけど、愛情が伝わってきて嬉しかったです！ 自分のために文字を綴ってくれたことに感動しました。文字の癖やペンの種類からも、ラブレターを書いているときの光景が思い浮かんで微笑ましくなります。普段わざわざ言葉にしないような心境が丁寧に書いてあると、一層気持ちが伝わってきますね。ラブレターに書いてあるように、これからも一緒にいたいと思えました。

Step.2 内容のヒアリングを受ける

カウンセリングでは幅広い視点から深掘りをしてくださったので、自分が伝えたいことは全部小林さんに伝えることができました。改めて思ったことは、自分が一番伝えたいのは感謝！ 小林さんから頂いた文面案を、形に残るように紙に書き起こしていきます。いつもLINEでやり取りしているけれども、こうして形式ばって伝えるのはちょっと緊張しちゃう（笑）。